

西の菜時記

特集：藩主毛利敬親公ゆかりの場所

◆山口市菜香亭：〒753-0091 山口市天花1丁目2番7号 TEL:083-934-3312 FAX:083-934-3360◆

平成27年6月30日発行
第37号

発行元：山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会



一の坂川交通交流広場にたつ山口中河原御茶屋説明版

御茶屋は、藩の公館で、藩主などの
休息所として交通の要衝に置かれたも
のです。花岡、三田尻、小郡、舟木、
吉田、佐々並にもありあました。
山口御茶屋は17世紀末の元禄以前
にすでに設置されていました。
敷地は、一の坂川に面する東側が62
間(約112メートル)、西側は46間
半(約83メートル)、南側は41間約
74メートル、北側は48間(約86
メートル)ありました。

いよいよ…敬親公始動！山口中河原御茶屋
平成27年5月、一の坂川に掛かる御茶屋橋のところに、「一の坂川交通
交流広場」がオープンしました。その場所に「山口中河原御茶屋」の説明
看板があります。この辺りには江戸時代、御茶屋がありました。



原田直次郎 毛利敬親肖像画
(山口県立博物館所蔵)

文久3年(1863)攘夷実行の
ため藩庁が萩から山口へ移され、敬
親も山口へ移り、それから明治4年
(1871)に亡くなるまでの8年
間を過ごしました。
山口における敬親ゆかりの場所を
紹介します。

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」で俳優北大路欣也が演じている長州藩第
13代藩主毛利敬親(もうりたかちか)は、天保8年(1838)に18歳
で藩主となりました。明治2年(1869)50歳で毛利家を元徳に譲るま
での33年間、人材発掘と財政改革に力に注ぎ、長州藩を幕末の雄藩におし
あげました。「そうせい公」と呼ばれたように家臣たちの意思を藩政に活か
したことから、近年では「名君」との評価が高まっています。

長州藩 藩主毛利敬親公ゆかりを巡る

もうりたかちか

そうせい!



湯田御茶屋を管理していた野原家が代々営業している
湯別当 野原旅館

湯田御茶屋には以前から、敬親は何回
も滞在していました。だから、またか
とみな思ったことでしょうか。
文久3年の八・一八政変で京都から山口
へ下向してきた七卿も、湯田御茶屋をた
びたび訪れました。
そういうときに毛利元徳(敬親の後継
者)もそこを訪れたこともありました。
湯治だけでなく、内密な話し合いにも使
われていたようです。

御茶屋は交通の要衝の他に、深川温泉、俵山温泉、それに湯田温泉に
設けられていました。
文久3年4月に毛利敬親は、世間には湯田温泉に湯治に行くといっ
萩から山口へ出てきました。幕府の許可を得ずに勝手に政治の拠点に移
すことはできなかったからです。
湯田温泉の旅館「湯別当湯原」がある場所に、江戸時代、湯田御茶屋
がありました。ここには御用の湯屋が二棟あり、藩主が入る男湯を本鍵、
奥方が入る女湯を裏鍵とよんでいました。士民一般用もありました。

カメララッシュに使った湯田御茶屋

藩庁が山口に移された文久3年4月16日、毛利敬親はここに入り、以
後山口御茶屋に住まい、政務をとりました。
NHK大河ドラマ「花燃ゆ」で、吉田松陰妹文が藩主毛利敬親と初め
て会ったのがここですが、本当に会ったかどうかはわかりません。
馬関砲撃事件で外国艦隊に敗北してどうし
ていいかわからなくなったとき、萩から高杉
晋作を呼び寄せて意見を求めたのもここで
す。そのとき晋作は身分にこだわらない奇兵
隊創設を申し出て許可されました。
また、英国留学から帰国した井上馨と伊藤
博文が攘夷を止めるために藩主御前会議で熱
弁をふるったのもここです。
あの坂本龍馬もここで藩重役と会談してい
ます。



イラスト:taeco

◆菜香亭市民ギャラリー出展作品紹介・予定表◆

<市民ギャラリー出展作品の紹介>

山口っ子の絵と工作・えのぐる作品展
—子どものアトリエ えのぐる— 4/11~4/12



クレイアート展 ~癒しの空間で、豊かな心を育む山口
—クレイアート工房「茶和茶話」林 佳代子— 6/10~6/15



第6回フレッシュフラワー&プリザーブドフラワーアレンジメント作品展~花燃ゆ~
—フラワーサークル「デンファレ」— 5/16~5/17



山口の花鳥風月~日本画教室生徒作品展~
—佐々木経二日本画教室— 5/28~5/31



出展ご希望の方は、2ヶ月前までにお申し出ください。

<平成27年度 市民ギャラリーの予定> 7・8・9月

月日	時間	タイトル	主催者
7/23 ~26	9時~17時	第2回 ふたりっこ制作展 in 山口	向田秀敏 向田美保
8/26 ~31	10時~16時 (初日のみ12時よ り、最終日のみ16 時まで)	あざみの会水彩画展	どうもんカルチャー センター同好会 「あざみの会」
9/26 ~27	9時~17時 (初日のみ9時半、 最終日のみ16時 まで)	やまぐち陶芸同好会の習作展	やまぐち陶芸同好 会

(お問い合わせ)

TEL : 083-934-3312

FAX : 083-934-3360

~花燃ゆ~に想う。

菜香亭初代館長 福田礼輔

現在NHKで放映中の「花燃ゆ」と同じ時代の明治初年に、藩政も替わり新しく萩から山口へと県庁は衣替し
て山口となる。

萩から山口へ、毛利藩の御膳方支配人であった齊藤幸兵衛も山口へ移住し、野田の八坂神社ちかくに割烹料亭
菜香亭を開業する。

江戸藩政時代から新しく近代明治へと世の中が全く変わった息吹きに包まれてゆく頃である。

当時の山口を知るひとつに、平凡社版の“日本歴史地名大系全国版 36 巻”は詳細に記述している。

山口の家数1544戸、人口5710人、空屋103戸とあり、商店として酒屋、油屋、菜種屋、呉服屋、醬
油屋、瀬戸物屋などが記録された。

山口県風土誌の著作者の近藤清石の著述によると『萩より安芸を目指すとして、山口の堅小路より本町通りをよ
ぎる頃は、酒、呉服店などあきなへる家の他は大体カヤ葺の家なり、旅人の松明を燃やして町中を歩行すること
は禁ぜられる』との記述もある。

江戸時代の慣習も残る当時の山口に開店した菜香亭の営業は決して平坦ではない。

しかし山口県政の中心地となった山口にあって、料亭維持の灯りを宿命のごとく灯しつづけた齊藤幸兵衛以後
の努力は、山口における料亭文化を完成させた。

菜香亭の亭名を揮毫した山口市出身の政治家井上馨をはじめ、料亭として活用した明治の
伊藤博文、山県有朋以後明治から平成に至るまで、文化サロン菜香亭の果たした業績に静かな
花が香る。

